ＮＩＥワークシート／小学校中学年～中学／社会・保健体育・学活・総合

神戸新聞 2021年07月26日 月曜日 面名 朝一 １４ 1ページ

阿部兄妹 金

一二三、攻め貫き「歴史を変えた」
詩、兄を追いかけ「初めての感覚」

柔道 神戸出身

東京五輪第3日の25日、柔道男子66㌔級の阿部一二三(ひふみ)(23)＝パーク24、神港学園高出身＝と、妹で女子52㌔級の阿部詩(うた)(21)＝日本体育大、夙川高出身＝がそろって金メダルを獲得した。日本オリンピック委員会（ＪＯＣ）によると、男女のきょうだいによる五輪金メダル獲得は日本初の快挙。神戸市兵庫区出身の2人はいずれも五輪初出場。兵庫県出身者による個人競技の優勝は１９８４年ロサンゼルス五輪柔道男子60㌔級の細川伸二（宍粟市出身）と同65㌔級の松岡義之（福崎町出身）以来、９大会ぶり（37年ぶり）となった。

（2、９～13、26、27面に関連記事）

兄と妹で同日に金メダルを獲得し笑顔を見せる男子66㌔級の阿部一二三と女子52㌔級の詩＝25日夜、日本武道館

妹は求め続けた「絶対的な強さ」を手に入れた。兄は失いかけた輝きを取り戻した。柔道は女子52㌔級の阿部詩と、男子66㌔級の阿部一二三が日本史上初の兄妹五輪制覇を達成。兄は「歴史を塗り替えることができた。これから日本の柔道を引っ張っていく」と新たな誓いを立てた。

詩は決勝で、自身の柔道人生に過去唯一、土をつけた海外選手アマンディーヌ・ブシャール（フランス）と対戦。本戦4分、延長４分超の末に磨いた寝技で決着し「初めてのような感覚が舞い降りてきた」。喜びが全身に満ち、涙があふれる。何度も畳をたたいた。

続いて決勝に挑んだ一二三は「妹が金メダル。すごく燃えた」。ジョージアの強敵の動きを冷静に見定め、右足を絡めて技ありを奪取。「ワンチャンスをものにできた。レベルアップした心技体すべてを見せられた」と誇った。

ともに幼い頃から、地元神戸の柔道教室で技を磨いた。泣き虫少年だった兄は中学、高校で日本一を達成するまでに成長し、日本体育大時代には世界選手権2連覇を達成した。

詩が「背中を追いかけてきた」という一二三だが、試練の雨が降りそそぐ。けがから復帰した丸山城志郎（ミキハウス）に、２０１８年秋から3連敗。世界選手権の3連覇も打ち砕かれ、五輪出場が危ぶまれた。

それでも「自分の柔道は絶対に間違ってない」。前へ出る。一本を取りにいく。攻撃型柔道を貫き、昨年12月、宿敵との五輪代表決定戦を制した。24分間という異例の長さの死闘。「妹には絶対に負けられない」という兄の意地でもあった。

詩は「技の引き出しは兄以上」と評価が高く、世界選手権も圧倒的な力で2連覇したが、それでも「柔道をしている兄が大好きで、尊敬している」。兄への思いはこの先も、変わることはない。

競技創始者で神戸出身の嘉納治五郎がかつて、東京への誘致に心血を注いだオリンピック。時は巡り、同じ郷土の兄妹が「ＴＯＫＹＯ」で頂点を極めた。

（藤村有希子）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

TOKYO Olympic

なまえ【　　　　　　　　　　】

①東京五輪柔道（とうきょうごりんじゅうどう）で、日本史上初（にほんしじょうはつ）の兄妹（きょうだい）で金（きん）メダルを獲得（かくとく）した２人の階級（かいきゅう）と名前（なまえ）を書きましょう。

兄（あに）［　　　　］選手（せんしゅ）、妹（いもうと）［　　　　］選手

②兵庫県出身者（ひょうごけんしゅっしんしゃ）による個人競技（こじんきょうぎ）の優勝（ゆうしょう）は何大会（なんたいかい）（何年（なんねん））ぶりですか。

［　　　　］ぶり

③2人の兄妹の東京五輪までの道（みち）のりをまとめましょう。

兄［　　　　］

妹［　　　　］

④二人にメッセージを送（おく）りましょう。

［　　　　］